

経済・金融 フラッシュ

米8月ISM指数 ～製造業指数が50を割り込む

経済調査部門 主任研究員 土肥原 晋

TEL:03-3512-1835 E-mail: doihara@nli-research.co.jp

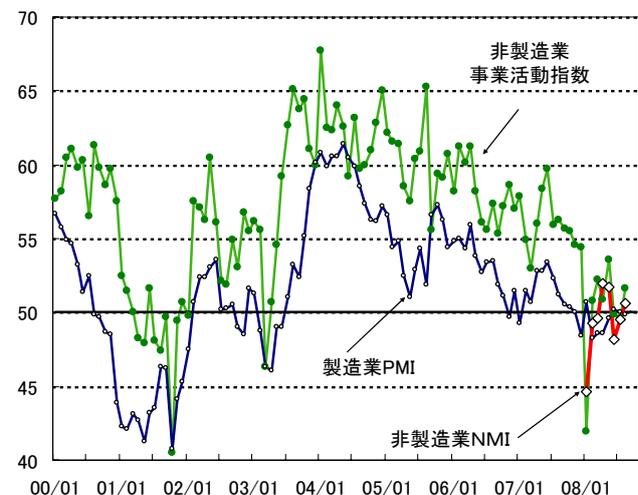
1、製造業指数が 49.9 に低下の半面、非製造業では 50.6 と回復

企業のセンチメントを示す I S M (米供給管理協会) 指数は、8月製造業指数 (PMI) が 49.9 と前月・市場予想値 (ともに 50.0) を下回った。製造業の拡大・縮小の分かれ目とされる 50 を下回ったのは、本年5月 (49.6) 以来3ヵ月ぶりとなるが、最近4ヵ月間は 50 を挟んで計 0.6 ポイントの狭いレンジの上下に留まるなど、ほぼ横ばいの推移にある。もっとも、各指数の動きは活発で、8月は価格指数が原油価格等の下落を受けて大幅な低下 (前月比▲11.5 ポイント)、入荷遅延指数も急低下した (同▲4.8)。業種別では、8月に上昇を見せたのは5業種で、コンピュータ・電子機器、製紙、化学等、悪化を見せたのは7業種で、輸送機器、機械、家具等だった。

一方、8月の非製造業指数 (NMI : 注) は 50.6 と7月 (49.5) から 1.1 ポイントの上昇、市場予想 (49.5) を上回り3ヵ月ぶりに 50 台を回復した。また、昨年まで非製造業の景況感を示す指数とされていた事業活動指数も 51.6 と前月 (49.6) から回復、NMI 同様3ヵ月ぶりに 50 台を回復した。事業活動指数は、1月に 41.9 とテロ事件直後の 2001 年 10 月 (40.5) 以来の低水準に落ち込んだが、2月以降 50 前後での推移を続けている。

以上のように、8月 I S M 指数は、製造業では 50 を割り込む一方、非製造業では 50 を回復し、明暗を分けた形となったが、両指数とも、最近 50 前後での推移を続けていることを考慮すると、方向感が定まらず、停滞気味の業況を示唆していると受け止められよう。なお、両業種の共通点としては、受注・雇用等の主要指数が 50 割れの推移を見せ、価格指数が6月をピークに下落をしていること、相違点としては、製造業の輸出指数が堅調推移にある半面、非製造業では輸出指数が低調で在庫指数が高めの推移を続けている点、等が挙げられる。(注:NMI(=Non-Manufacturing Index) は、本年1月より非製造業指数の総合指数として発表を開始。事業活動、新規受注、雇用、入荷遅延の各指数の均等ウェイトで構成されている。)

(図表1) ISM指数の推移(月別)



(資料) Institute for Supply Management、以下も同じ。

(各指数の内訳)

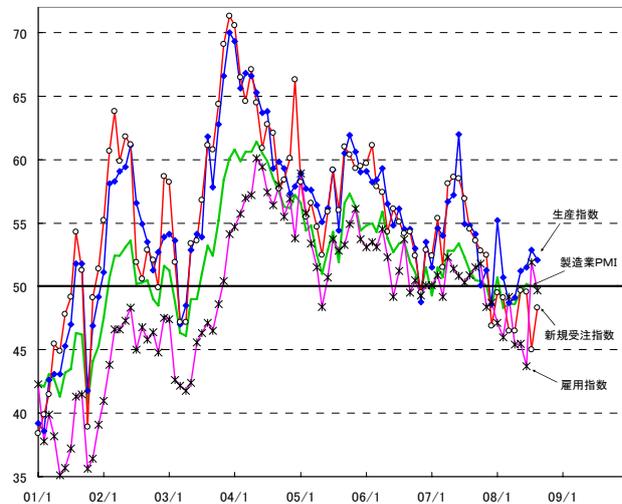
2、製造業各指数では、顧客在庫指数上昇の半面、価格指数が急低下

ISM製造業指数の各指数のうち、8月の上昇が大きかったのは、顧客在庫（前月 47.0→54.5）、在庫指数（前月 45.0→49.3）在庫指数（前月 45.0→49.3）、新規受注（前月 45.0→48.3）、輸出指数（前月 54.0→57.0）で、下落が大きかったのは価格指数（前月 88.5→77.0）、入荷遅延指数（前月 55.1→50.3）等だった。

PMI を構成する主要指数の動きを見ると、生産指数（前月比▲0.8 ポイント）、雇用指数（同▲2.2）等が悪化するなど、今回の PMI は、在庫・新規受注指数のプラスと入荷遅延・雇用指数のマイナスが綱引きをした形である。

なお、指数が 50 を超えたのは、価格指数（77.0）、新規輸出受注（57.0）、顧客在庫（54.5）、生産（52.1）、入荷遅延（50.3）の 5 指数で、このうち前月比で上昇したのは新規輸出受注（57.0）、顧客在庫（54.5）となるが、これらは前月の落ち込みの反動増と見られ、両者とも 6 月の水準は下回っている。今後は、急低下してきた価格指数（前月 88.5→77.0）や、雇用統計に比べ 50 前後で比較的高水準にある雇用指数の動向、回復を見せた新規輸出受注等が注目されよう。

(図表2) ISM製造業指数の内訳と推移 (月別)



(図表3) ISM指数製造業と非製造業指数の一覧

製造業指数										
	8月	7月	6月	5月	4月	3月	2月	1月	12月	7→8月 変化幅
PMI	49.9	50.0	50.2	49.6	48.6	48.6	48.3	50.7	48.4	▲ 0.1
新規受注	48.3	45.0	49.6	49.7	46.5	46.5	49.1	49.5	46.9	3.3
生産	52.1	52.9	51.5	51.2	49.1	48.7	50.7	55.2	48.6	▲ 0.8
雇用	49.7	51.9	43.7	45.5	45.4	49.2	46.0	47.1	48.7	▲ 2.2
入荷遅延	50.3	55.1	55.1	53.7	54.0	53.6	50.1	52.8	52.6	▲ 4.8
在庫	49.3	45.0	51.2	48.0	48.1	44.9	45.4	49.1	45.4	4.3
顧客在庫	54.5	47.0	55.0	47.0	45.0	51.0	49.0	49.5	51.5	7.5
価格	77.0	88.5	91.5	87.0	84.5	83.5	75.5	76.0	68.0	▲ 11.5
受注残高	43.5	43.0	47.5	46.0	51.5	47.5	45.0	44.0	43.0	0.5
新規輸出受注	57.0	54.0	58.5	59.5	57.5	56.5	56.0	58.5	52.5	3.0
輸入	48.5	46.5	46.0	49.5	48.0	45.0	47.5	52.5	48.0	2.0

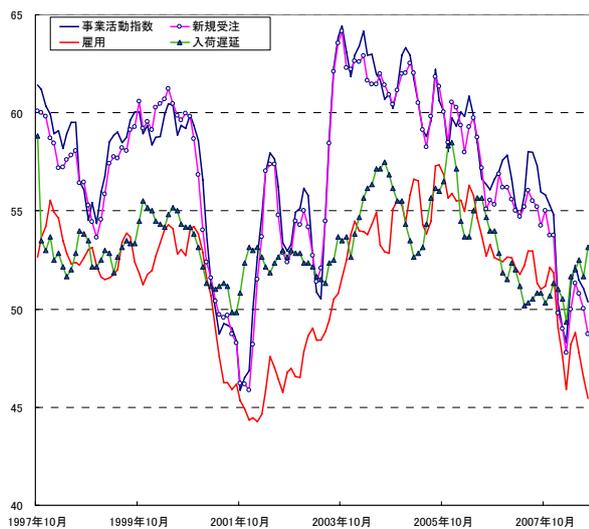
非製造業指数										
	8月	7月	6月	5月	4月	3月	2月	1月	12月	7→8月 変化幅
NMI	50.6	49.5	48.2	51.7	52.0	49.6	49.3	44.6	N/A	1.1
事業活動	51.6	49.6	49.9	53.6	50.9	52.2	50.8	41.9	54.4	2.0
新規受注	49.7	47.9	48.6	53.6	50.1	50.2	49.6	43.5	53.9	1.8
雇用	45.4	47.1	43.8	48.7	50.8	46.9	46.9	43.9	51.8	▲ 1.7
入荷遅延	55.5	53.5	50.5	51.0	56.0	49.0	50.0	49.0	52.5	2.0
在庫	53.5	54.5	53.0	54.0	47.0	51.5	50.0	44.5	50.5	▲ 1.0
価格	72.9	80.8	84.5	77.0	72.1	70.8	67.9	70.7	71.5	▲ 7.9
受注残高	49.0	52.0	49.0	49.0	50.0	47.5	49.5	46.0	49.0	▲ 3.0
新規輸出受注	44.5	47.5	52.0	54.0	48.5	55.0	46.5	52.0	50.0	▲ 3.0
輸入	46.0	49.0	50.5	48.0	50.0	54.5	49.0	41.5	50.5	▲ 3.0
在庫センチメント	66.0	62.5	60.0	66.5	63.0	60.5	60.5	57.0	64.5	3.5

3、非製造業の内訳では、価格指数が急落、雇用指数が低調な推移

非製造業各指数の動向を見ると、製造業同様、6月に84.5と過去最高値を更新していた価格指数が、8月は72.9（前月80.8）と大きく続落、原油価格下落の影響が顕著に反映された形となっている。その他の指数では、輸出・輸入指数がいずれも3ポイント下落した。半面、上昇幅が大きかったのは、入荷遅延55.5（前月53.5）、新規受注49.7（前月47.9）等となる。最近の動きでは、各指数が概ね下落傾向にある中で、在庫と入荷遅延指数に関しては、反転上昇の動きを見せているのが目を引く。

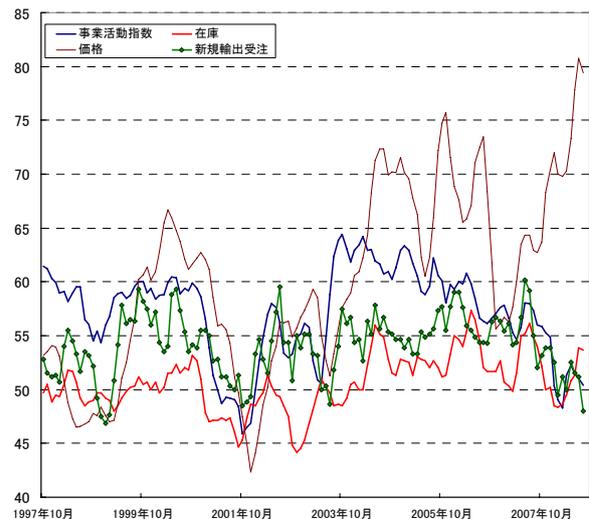
なお、雇用指数に関しては45.4と4ヵ月連続で50を下回っており、製造業の雇用指数を下回る推移となっている。雇用減を回答した業種は金融・保険、運輸・倉庫、建設・不動産、人材派遣、卸売・小売業、等10業種に昇るが、雇用増を回答したのは、鉱業、教育、専門技術サービス、ヘルスケア、等6業種に留まる。今後、発表される雇用統計等でサービス業の雇用者数が、製造業同様、減少に転じるのかが注目されよう。

(図表4) ISM非製造業指数の内訳 (その1)



注：3ヵ月移動平均

(図表5) ISM非製造業指数の内訳 (その2)



注：3ヵ月移動平均

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。